

神石高原町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業効果検証一覧表

施策番号	施策名	指標	指標の説明	現状値	目標値 (H31)	実績値 (H29)	交付金	事業実施後の評価・効果検証 【1次評価】※注1		策定委員会の評価 【2次評価】※注2		
								評価	評価の理由	KPI達成に有効であったと評価した委員数	KPI達成に有効とは言えなかった評価した委員数	意見
7-①-1	出会いサポート事業（プライダール関連事業）	ひろしま出会いサポートセンター登録者数 町出会いサポート事業の支援を受けて結婚した者	ひろしま出会いサポートセンターに会員として登録している者の数 町プライダールセンター登録者の内、結婚した者	(H26) : - (~H26) : 1組	(H31) : 15人 (H31まで) : 5組	0人 0組		D	プライダールイベント（2回計画うち1回実施）を開催したがH29:0組であった。	0	9	・継続をマスコミが取り上げては ・当事者が欲しがっているものでない ・町の熱意が欲しい
7-①-2	神石高原町元気の源応援事業	合計特殊出生率		(H20~24) : 1.87	(H31) : 2.00 (※H32以降2.10)	----	基礎	B	指標数値は未公表であるが、昨年に引き続き出産につながる例があったため、子育て支援の充実が図れた	7	2	・一人でも利用者があるのであれば、実施するべきである
7-①-3	エンゼル祝金支給事業	合計特殊出生率		(H20~24) : 1.87	(H31) : 2.00 (※H32以降2.10)	----		F	実績値が未公表であり、評価が困難なため。			
7-②-1	子育て世帯経済的支援事業	子育て世帯の新規定住世帯（U・Iターン）数	18歳以下の子どもを持つ世帯数	(H26) : 18世帯	(H31まで) : 28世帯	20世帯		A	目標値を上回ったため	9	0	
7-②-2	延長保育、休日保育	両親フルタイム勤務の世帯割合	保育所児童の保護者の内、両親フルタイム世帯の割合	(H26) : 74.3%	(H31) : 75.0%	81.8%		B	延長保育は、目標値を上回ったが、休日保育は、制度検討中のため、未実施	8	1	・休日保育のニーズがあるのか
7-②-3	子どもの一時預かりサービス	両親フルタイム勤務の世帯割合	保育所児童の保護者の内、両親フルタイム世帯の割合 ※7-②-2と重複	(H26) : 74.3%	(H31) : 75.0%	81.8%		A	目標値を上回ったため	8	1	
7-②-4	子育て支援入学金支給事業	子育て世帯の新規定住世帯（U・Iターン）数	18歳以下の子どもを持つ世帯数 ※7-②-1と重複	(H26) : 18世帯	(H31まで) : 28世帯	20世帯		A	目標値を上回ったため	9	0	
7-③-1	子どもの医療体制の充実	子育て世帯の新規定住世帯（U・Iターン）数	18歳以下の子どもを持つ世帯数 ※7-②-1、※7-②-4と重複	(H26) : 18世帯	(H31まで) : 28世帯	20世帯		A	U・Iターンなどにより、多くの転入世帯があった	7	2	・医療の充実ならば、目標は小児科医の配置ではないか
7-③-2	インフルエンザ予防接種助成事業	学校等の集団閉鎖数	インフルエンザ予防接種の効果による学級閉鎖の解消	(H26) : 1学年3日閉鎖	(H31) : 0日	4校のべ15日	基礎	C	集団発生し学級閉鎖があったが、重篤な報告はなかったため効果はあった	8	1	
7-⑤-1	CATV赤ちゃん誕生放送	町等が実施しているサービス満足度	町子ども・子育て支援事業計画アンケート調査	(H26) : 91.6%	(H31) : 92.0%	-		C	出生届34件中、放送希望は21件あり（希望者61.8%）。実績値の把握はできていない。			
4-①-1	「山・海・島」体験活動推進事業	不登校児童数		(H26) : 0人	(H31まで) : 0人を維持	1人		B	指標は下回ったが、不登校児童は体験活動事業には参加することができた。	7	2	・不登校は関係ないし、体験活動はいいことである ・不登校児童数0人の目標としているが、例外は認めないという意味か
4-②-1	小・中・高等教育支援事業	中学生の英語検定合格者数 高等学校生徒の英語検定合格者数 油木高校入学者の地元率	町内中学校から油木高校への入学率	(H26) : 53人 (H26) : 10人 (H22~26年平均) : 58%	(H31年) : 80人 (H31年) : 15人 (H31まで) : 80%	61人 35人 54%		B	指標を上回った	8	1	
4-②-2	油木高等学校教育連携支援事業	油木高校入学者の地元率 地域に貢献しようとする意欲を持っている高校生徒の割合	町内中学校から油木高校への入学率 H27年度県調査	(H22~26年平均) : 58% (H26) : -、(27) : 71.8%	(H31まで) : 80% (H31まで) : 80%	54% ----		D	町内の中学校卒業生69人に対して、入学者は37人	4	5	・意図的に高い数値を目標に設定しているのでは
4-③-1	地域学習の導入	学校に行くのが楽しい児童の割合 地域や社会で起こっている問題や出来事へ関心を持つ生徒の割合	小学6年生を対象とした全国学力・学習状況調査結果 中学3年生を対象とした全国学力・学習状況調査結果	(H26) : 89.1% 90.5% (H26) : 86.3% 69.5%	(H31) : 97.8% (H31) : 94.7%	83.5% 71.9%		B	特に中学生の調査結果で下回った。	7	2	・学力は上がっているが、地域に対する考えることが少ない
4-③-2	新規就農者確保事業	広島県立農業技術大学卒業生の町内定住者数及び新規就農者数	農業技術大学卒業生の地元定着、就農者数	(H26) : -	(H31まで) : 定住者5名 (内、就農者2名)	3人(3人)		B	卒業生が町内の法人等に雇用就職し、定住確保につながった。	8	1	
4-①-1	営農体制の確立、強化	農産物産出額 農地集積面積	米、野菜、果樹、花きの農産物産出額 地域の核となる経営力の高い担い手に集積した農地面積	(H26) : 18.3億円 (H26) : 554ha	(H31) : 19億円 (H31) : 560ha	23.7億円 525ha		B	平成29年度においては、農地中間管理事業の活用により、新たに集落法人2つの担い手への農地集積を図ることができた。	8	1	
4-②-1	6次産業化支援事業	売上額百万円以上の商品化 6次産業の市場規模	6次産業化の新商品化及び起業者の数 地元農産物を活用した農業生産関連事業（加工、販売等）の年間販売額	(H26) : - (H26) : 95,000千円	(H31まで) : 商品数1商品、起業者1人 (H31) : 97,000千円	0商品、0起業者 94,406千円		D	新商品の販売もなく、販売額も目標に届いていない。	1	8	・民間で行われている数値の把握がされていない相当数あるはずである
4-②-2	赤と黒のプロジェクト・和牛振興	和牛の担い手経営体 町産和牛出荷頭数	和牛経営の担い手となる経営体の数 町内で肥育された和牛の食肉市場等への出荷頭数	(H26) : 11経営体 (H26) : 226頭	(H31) : 30経営体 (H31) : 240頭	16経営体 (H29) : 374頭		B	経営継承が順調。経営体・出荷頭数とも前年比増となっている。	8	1	
4-②-3	赤と黒のプロジェクト・トマト振興	トマトの担い手数	トマト栽培の担い手となる認定農業者、農業法人の経営体の数	(H26) : 20	(H31) : トマト専作法人 : 1法人(0.3ha) 認定農業者 : 16人(8.5ha) 新規就農者 : 17人(8.5ha)	2法人(1.1ha) 17人(6.6ha) 23人(新規就農者)		B	経営体が増加している。研修制度により、新規就農者も増加している。	8	1	
4-②-4	赤と黒のプロジェクト・ぶどう振興	ぶどうの担い手数	ぶどう栽培の担い手となる認定農業者、農業法人の経営体の数	(H26) : 5	(H31) : ①集落法人等 : 3法人 ②認定農業者(個人) : 1人 ③農業者(モデル) : 2人	0法人 1人 1人		B	計画どおり認定農業者を得ることができた。	8	1	
4-②-5	神石高原有機農業推進事業	有機農業者数		(H26) : 9人	(H31) : 11人	9人		C	有機農産物の販路と生産拡大が図られている。	4	5	
4-②-1~5		認定農業者数 ※再掲	担い手となる認定農業者、農業法人の経営体の数	(H26) : 81経営体 (内法人23)	(H31) : 85経営体 (内法人24)	79経営体		B	前年度末より2経営体増加した。			
		「未来創造計画」の推進による産業対策効果の換算人数	「未来創造計画」の取組によって得られた経済指標の実績を人口に換算した数	(H26) : 0人	(H31) : 77人	30人		C	計画52人に対して30人換算			
4-③-1	新規就農者の支援	新規就農者数	町内で自営農業に就業又は法人等に就職した人数	(H26) : 17人	(H31) : 22人	24人		B	前年度より2名の増加。離農者もいるが着実に就農者が増えている。	8	1	

神石高原町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業効果検証一覧表

施策番号	施策名	指標	指標の説明	現状値	目標値（H31）	実績値（H29）	交付金	事業実施後の評価・効果検証【1次評価】※注1		策定委員会の評価【2次評価】※注2		
								評価	評価の理由	KPI達成に有効であったと評価した委員数	KPI達成に有効とは言えなかった評価した委員数	意見
ウ④-1	森林資源の循環利用	町産材（スギ・ヒノキ）素材生産量 林業新規雇用者数	町内の人工林（スギ・ヒノキ）から生産される木材の量 林業に従事する就業者数	(H26) : 9,100m ³ (H26) : ー	(H31) : 11,000m ³ (H31) : 5人	10,822m ³ 0人		C	木材生産については、例年並みで推移しているものの計画的な施業は出来ていない。	3	6	
ウ⑤-1	プレミアム商品券消費喚起事業	消費拡大効果	プレミアム商品券の発行による消費喚起	(H26) プレミアム率10%、レバレッジ効果11倍	(H27) プレミアム率10%、レバレッジ効果11倍 プレミアム率30%、レバレッジ効果4.3倍	プレミアム率10% レバレッジ効果11倍		B	課題はあるが一定の効果あり	7	2	
ウ⑤-2	地産地消推進事業	町内調達拡大による町内雇用率 学校給食での町内農産物利用率	調査対象事業所の町内雇用率	(H26) : 72% (H26) : 30%	(H31) : 75% (H31) : 増加	72% 27.2%		D	指標に届いていないため	3	6	
ウ⑤-3	住宅建設促進事業	住宅取得件数	新築住宅の建築件数の内、奨励措置された家屋数	(H26) : 奨励措置13件	(H31まで) : 奨励措置50件	奨励措置39件		A	目標値を達成したため	8	1	
ウ⑤-4	就業支援事業	就業相談による新規就業者数	就業窓口に相談があった者の内、新規の就業者数	(H26) : ー	(H31まで) : 50人	0人		E	環境が整わず出来なかった	1	8	
ウ⑥-1	町内観光・交流促進事業	入込観光客数	町内の観光地を訪れた観光客の合計	(H26) : 486千人	(H31) : 600千人	732千人		A	順調に増加している	9	0	・入込観光客数を目標としているが、問題は地域にどれだけお金を落とすかの客単価ではないか
ウ⑦-1	遊休財産を活用した企業誘致	町内外から新たな企業の誘致	企業立地によって発生した新規雇用者数	(H26) : ー	(H31まで) : 企業数1社、従業員数20人程度	0社、0人		E	誘致企業がない	1	8	
ウ⑧-1	起業支援事業	起業家数	新規事業所数	(H26) : ー	(H31まで) : 5社	3社		A	小規模ながら新規開業があった	9	0	・町内全ての起業把握が出来ているのか ・NPO法人等も含めて、把握の方法を検討するべきでは
イ①-1	神石高原町移住促進メディア強化事業	空き家活用による新規定住者数	空き家情報バンク利用登録者の定住者数	(H26) : 6世帯、15人	(H31まで) : 25世帯 (5世帯/年)、75人	11世帯、20人		A	目標値を達成したため	8	1	
イ②-1	移住促進・空き家活用支援事業	空き家活用による新規定住者数	空き家情報バンク利用登録者の定住者数 ※イ①-1と重複	(H26) : 6世帯、15人	(H31まで) : 25世帯 (5世帯/年)、75人	11世帯、20人		A	目標値を達成したため	9	0	
イ②-2	神石高原町定住相談窓口運営事業	空き家活用による新規定住者数	空き家情報バンク利用登録者の定住者数 ※イ①-1、イ②-1と重複	(H26) : 6世帯、15人	(H31まで) : 25世帯 (5世帯/年)、75人	11世帯、20人		A	目標値を達成したため	9	0	
イ④-1	子育て応援住宅等取得支援事業	子育て世代の新規定住世帯数（持ち家）		(H26) : ー	(H31まで) : 15世帯 (3世帯/年)、45人	5世帯19人		A	目標を上回ったため	8	1	
イ④-2	公営住宅建設事業	子育て世代の新規定住世帯数（公営住宅）		(H26) : ー	(H31まで) : 10世帯 (入居世帯の6割)	10世帯 (入居世帯の4割)		B	目標値の入居10世帯は達成できたものの、子育て世代の新規定住世帯数の目標値は入居世帯の4割に留まった。	6	3	
イ⑤-1	ひろしま里山ウエーブ拡大プロジェクト事業	里山ウエーブプロジェクトの実施に伴い、集積した多様な人材数	事業を通じて定着した人材の人数及びその人材の活動を通じて間接的に定着した人材の人数	(H26) : ー	(H31まで) : 移住者5人	0人	基礎	C	主要KPI（移住者確保）は達成しなかったものの、町のサポーターの拡大確保が図られたため。	2	7	・事業の内容がわかりにくい
イ①-1～ イ⑤-1		UIターン転入者数	新規定住世帯数、人数	(H26) : ー	(H31まで) : 50世帯 (10世帯/年)、100人	19世帯、19人						
オ①-1	遊休施設等を活用した高齢者世帯等の生活拠点づくり	高齢者向け住宅の入居数	居住環境の整備と、整備のための用地確保・遊休施設の整理	(H26) : 5棟、5戸	(H31まで) : 5棟、10戸	0棟、0戸		F	廃校舎の解体（旧豊松中）は予定通り進み用地確保はできた。介護施設の移転用地（旧神石中）として貸し付けた。	0	9	
オ④-1	協働支援センター設置事業	協働支援センターの設置	協働支援センターの設置数	(H26) : ー	(H31) : 4箇所	4箇所	基礎・加速	A	目標を達成したため。	9	0	・設置はしてあるが成果は
オ④-2	道の駅機能強化事業			(H26) :	(H31) : 460千人	435千人		D	来客数が目標値に達していない。			
オ⑤-1	神石高原町地域公共交通網形成計画推進事業	公共交通【保・小中学生利用者数】 公共交通【一般市民利用者数】 タクシーチケット利用者数		(H26) : 15人 (H26) : 150人 (H26) : 310人	(H31) : 10人 (H31) : 100人 (H31) : 500人	***		F	平成29年度より公共交通体系を大幅に見直したため、総合戦略策定時との数値比較が困難になった			
オ⑥-1	備後圏域連携中枢都市圏の形成	びんご圏域ビジョンで設定するKPI			(びんご圏域ビジョンで設定)	----		F	びんご圏域で効果検証を実施するため			
オ⑦-1	神石高原町総合戦略策定事業	総合戦略策定・PDCAに係る会議の開催回数	総合戦略策定・PDCAに係る会議の開催回数	(H26) : ー	(H31) : 総合戦略策定委員会の開催回数5回（1回/年）	1回	基礎	B	目標を達成したため。	8	1	
オ⑦-2	PDCAサイクルによる計画の進行管理					1回		B	目標を達成したため。	8	1	

※注1【1次評価】「事業実施後の評価・効果検証」において、次のA～F評価により庁内で評価を行った。
 A評価：当町のまち・ひと・しごと創生に対し、非常に効果的であった。※指標が目標値を上回ったなどの場合。
 B評価：当町のまち・ひと・しごと創生に対し、相当程度効果があった。※目標値を上回ることにはなかったものの、目標値を相当程度（7～8割）達成したなどの場合。
 C評価：当町のまち・ひと・しごと創生に効果があった。※目標値を上回ることにはなかったものの、事業開始前よりも数値が改善したなどの場合。

D評価：当町のまち・ひと・しごと創生に対して効果がなかった。※実績値が事業実施前よりも悪化しているなどの場合。
 E評価：事業を実施しなかった。
 F評価：その他※事業の実施状況により評価が困難な場合。

※注2【2次評価】庁内での検証を踏まえ、外部組織である「神石高原町総合戦略策定委員会」にて評価・検証を行った。